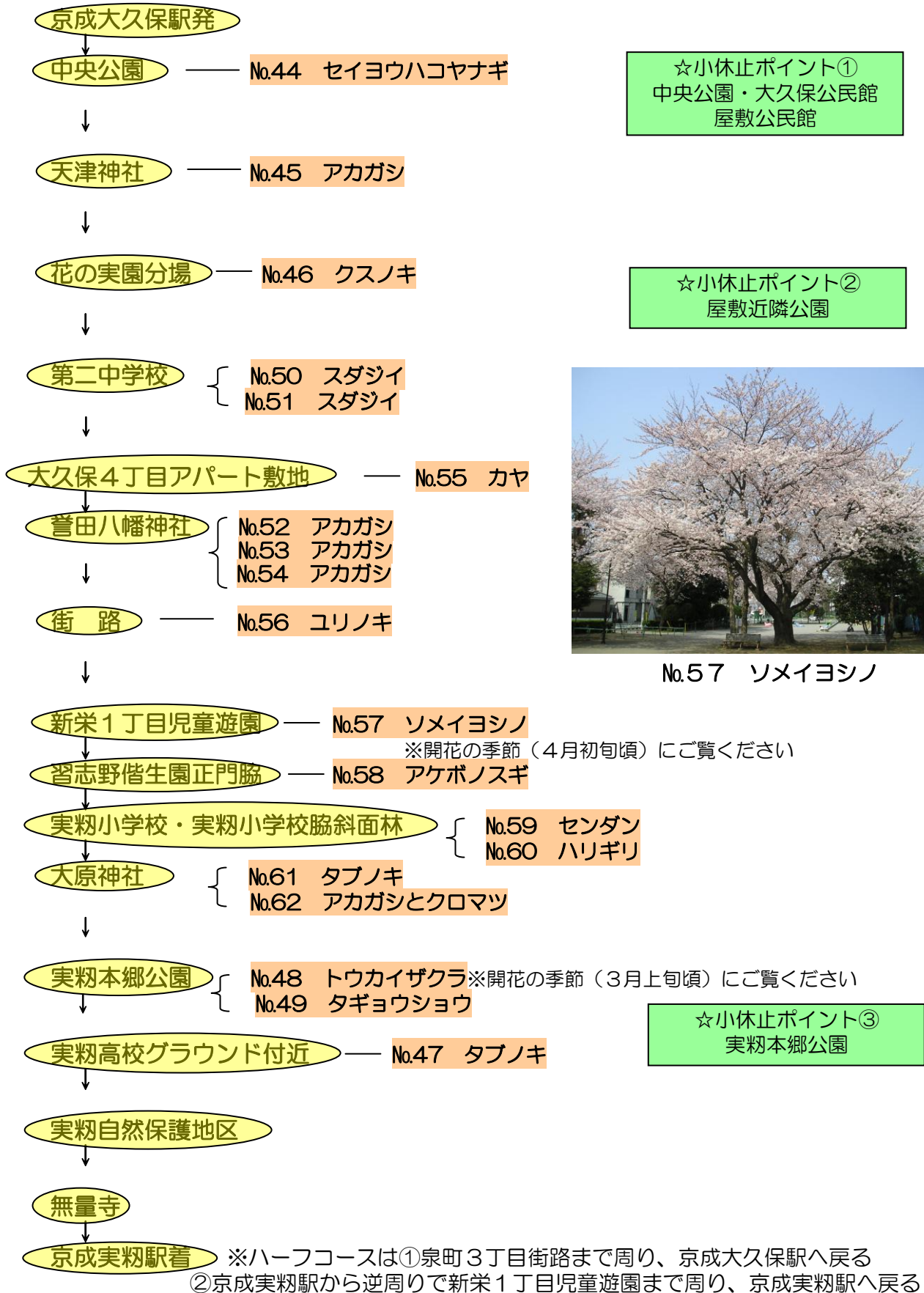


◆「神社探訪・自然満喫コース」
 <大久保・本大久保・泉町・新栄・屋敷・実籾地区>

〔約8.0km〕

○コース順路（指定名木数：19）



☆小休止ポイント①
中央公園・大久保公民館
屋敷公民館

☆小休止ポイント②
屋敷近隣公園



No.57 ソメイヨシノ

☆小休止ポイント③
実籾本郷公園

地図



名 木 紹 介

指定番号 44 樹種名 セイヨウハコヤナギ (別名 ポプラ) (やなぎ科)

名木分類 姿や形がきれいな木

樹高 22.8m 幹周り 1.89m

樹木説明 南ヨーロッパ原産。枝が直立する独特の樹形は、ポプラ並木で良く知られています。



No.44 セイヨウハコヤナギ

指定番号 45 樹種名 アカガシ (別名 オオガシ) (ぶな科)

名木分類 古くからある木

樹高 15.9m 幹周り 2.87m

樹木説明 中部以南の山地に自生する常緑高木。
推定樹齢380年といわれる古木です。

指定番号 46 樹種名 クスノキ (別名 クス) (くすのき科)

名木分類 大きな木

樹高 12.0m 幹周り 2.47m

樹木説明 暖地に自生する常緑高木。
材は堅く、葉から樟脳及び樟脳油が作られます。



No.50 スダジイ

指定番号 50 樹種名 スダジイ (ぶな科)

名木分類 いわれのある木

樹高 10.8m 幹周り 1.68m

樹木説明 中部以南に生える常緑高木。
白色の子葉を持つ種子は食べられます。

指定番号 51 樹種名 スダジイ (ぶな科)

名木分類 いわれのある木

樹高 11.2m 幹周り 3.63m

樹木説明 第二中学校の校木に指定され、シンボルツリーとして親しまれています。



No.55 カヤ

指定番号 55 樹種名 カヤ (いちい科)

名木分類 古くからある木

樹高 8.2m 幹周り 1.61m

樹木説明 常緑広葉樹。市内ではめずらしい。
実は食用となり、材は堅くて碁盤などに利用されます。

指定番号 52 樹種名 アカガシ (別名 オオガシ) (ぶな科)

名木分類 古くからある木

樹高 15.7m 幹周り 2.98m

樹木説明 中部以南の山地に自生する常緑高木。
堅果は年を越えて成熟し、楕円形。



No.52 アカガシ

指定番号 53 樹種名 アカガシ (別名 オオガシ) (ぶな科)
名木分類 古くからある木
樹高 16.9m 幹周り 1.36m
樹木説明 アカガシの名は、材質が赤みを帯びていることからついたものです。

指定番号 54 樹種名 アカガシ (別名 オオガシ) (ぶな科)
名木分類 古くからある木
樹高 19.2m 幹周り 2.57m
樹木説明 誉田八幡神社の御神木としてあがめられています。

指定番号 56 樹種名 ユリノキ
(別名 ハンテンボク) (もくれん科)
名木分類 大きな木
樹高 17.8m 幹周り 3.22m
樹木説明 葉が半纏 (はんてん) のような形をしているところから、
こんな名前がつけました。

指定番号 57 樹種名 ソメイヨシノ (ばら科)
名木分類 姿や形がきれいな木
樹高 11.9m 幹周り 3.04m
樹木説明 住宅地に残された、昔からある桜は、
地元のシンボルとなっています。

指定番号 58 樹種名 アケボノスギ
(別名 メタセコイア) (すぎ科)
名木分類 地域のシンボルとなっている木
樹高 19.1m 幹周り 1.20m
樹木説明 生きた化石といわれる古くからある木。落葉針葉樹。
園ではグループホームの名前に使っています。

指定番号 59 樹種名 センダン (別名 オウチ) (せんだん科)
名木分類 めずらしい木
樹高 11.6m 幹周り 1.32m
樹木説明 四国九州地方海辺に自生する落葉高木。
庭木、街路樹の他、家具の用材にもなります。

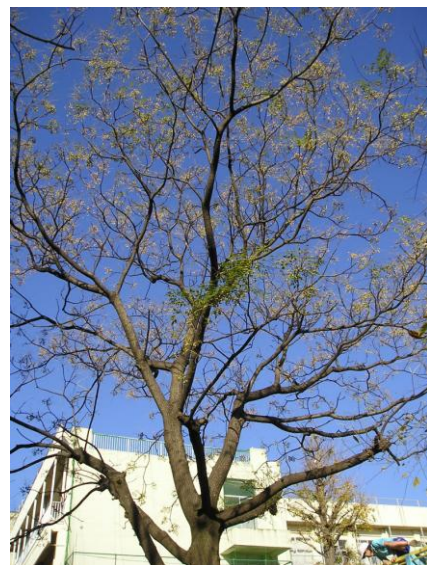
指定番号 60 樹種名 ハリギリ (別名 センノキ) (うこぎ科)
名木分類 めずらしい木
樹高 15.9m 幹周り 3.42m
樹木説明 山地に生える落葉高木。枝や幹には多くの鋭い棘があります。
下駄等の材となります。



No.54 アカガシ



No.56 ユリノキ



No.59 センダン(枝一杯の実)

指定番号 61 樹種名 タブノキ (別名 イヌグス) (くすのき科)
 名木分類 古くからある木
 樹高 16.7m 幹周り 2.14m
 樹木説明 海の近くに自生する常緑高木。市内の神社でよくみられます。
 地域では「夫婦タブノキ」と呼ばれています。



No.62 アカガシとクロマツ

指定番号 62 樹種名 アカガシとクロマツ (ぶな科・まつ科)
 名木分類 めずらしい木
 樹高 12.9m 幹周り 3.40m
 樹木説明 どちらも枯れることなく、がっぷりと根元から組んでいます。

指定番号 48 樹種名 トウカイザクラ (ばら科)
 名木分類 めずらしい木
 樹高 5.7m 幹周り 0.61m
 樹木説明 初春に淡紅色、小輪一重の花が開きます。



No.61 タブノキ

指定番号 49 樹種名 タギョウショウ (まつ科)
 名木分類 姿や形がきれいな木
 樹高 5.2m 幹周り 0.25m
 樹木説明 アカマツの園芸品種。根元から多く分枝します。
 美松ともいわれ、株立ちした姿は美しい。

指定番号 47 樹種名 タブノキ (別名 イヌグス) (くすのき科)
 名木分類 地域のシンボルとなっている木
 樹高 13.0m 幹周り 0.69m (株分け)
 樹木説明 海の近くに自生する常緑高木。
 市内の神社でよくみられます。



No.48 トウカイザクラ



No.49 タギョウショウ

チェックポイント

◆中央公園

野球場やパークゴルフ場が整備され、幅広い年齢にわたる地域の方々が、スポーツを楽しんでいます。

◆天津神社

中世に馬加（幕張）城主の千葉氏が屋敷台に一時移り住んだとき、妙見宮を創建したと伝えられ、近代になり天津神社と改称したといわれます。天御中主大神を祀っています。例祭は9／22で、神輿渡御が3年に一度行われます。

◆誉田八幡神社

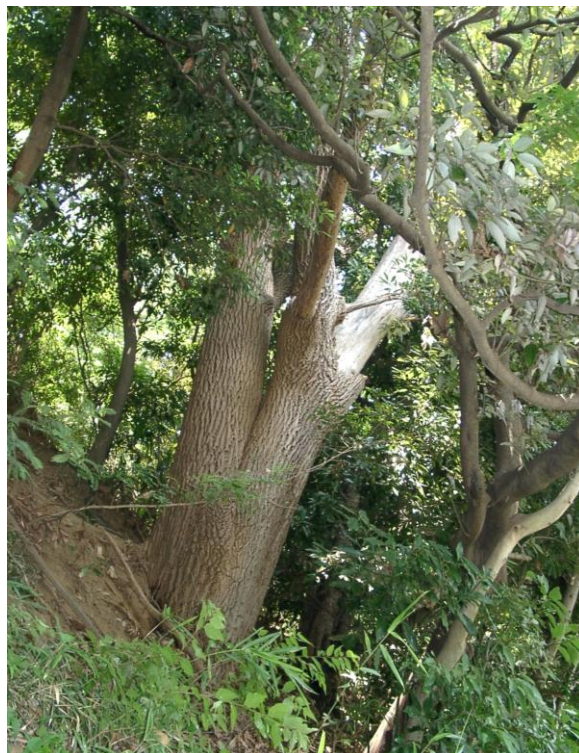
大久保新田の開祖である市角頼母が延宝年間（1673～81）に河内国古市群誉田村より現在の本大久保の富士見公園付近に移し、さらに現在地に移したといわれます。誉田別之命（応神天皇）を祀っています。9／15に例祭が行われます。

◆八幡公園

旧旅団司令部の奥庭だったところで、公園の入口には旅団司令部にあった赤レンガの門柱が残されています。また、園内には習志野騎兵旅団発祥の地碑、騎兵第一旅団司令部跡の碑、軍馬之碑、軍馬忠魂塔などがあり、当時の様子を偲ぶことができます。

◆実籾1丁目斜面林（実籾小学校内）

市の環境保全地区に指定されている斜面林に沿って、PTAの皆さんによって整備された「観察の小径」という遊歩道があり、スダジイなど常緑樹があります。



No.60 ハリギリ

◆大原神社

天治元年（1124）に実籾本郷に創建されたと伝え、その後、東金街道ができたので、その道沿いの現在地に移したといわれています。イザナギノミコト・イザナミノミコトを祀っていて、男女二神であることから縁結びの神とされています。10/19に例祭が行われます。なお、三山の二宮神社の注連下の一社であり、丑・羊年の式年祭に加わっています。タブ、スダジイなどの大木が残る鎮守の森で、50種以上の樹木が見られます。

◆実籾本郷公園（旧鵜田家住宅）

実籾自然保護地区に隣接した公園で、「水鳥の島」「菖蒲田」「遊戯広場」「多目的広場」などからなり、散策路の設けられた池にはコイが泳ぎ、カワセミなどの鳥やたくさんのトンボもやってきます。

公園の中ほどには、貴重な建築物を当時の部材を使って復原し、市の有形文化財に指定されている旧鵜田家住宅が保存されています。鵜田家は、江戸時代以後、東金街道沿いの実籾村（現在の実籾2丁目付近）に建てられた旧家です。「曲家」と呼ばれる形式で、東北南部地方に多く見られますが、関東地方に現存している例は少なく、近世においては名主の家として使われた、規模の大きい民家です。

また、鵜田家の主庭には、本市でもめずらしい水琴窟（すいきんくつ）があり、神秘的な音色を奏でています。



◆実籾自然保護地区

市内の重要な自然を保護することを目的として、平成4年8月に自然保護地区に指定しました。広さは約1haあり、市内では少なくなった水田と斜面林が組み合わさった「谷津田」となっています。日本の里山とよばれる景観の代表である谷津田は、小さな谷の湿地を人々が水田として利用するようになったもので、谷を囲む樹林では、薪や材木をとったり、落葉は肥料として使われました。谷津田の景観は人々が農業を通じて守ってきたものですが、以前はたくさんあった農地が住宅地になるなど、谷津田も少なくなり、市内ではこの実籾地区のみとなってしまいました。ここには今でも昔からの水田があり、春にはカエルが鳴き、オタマジャクシが泳ぎ、秋にはアカトンボがたくさんやってきます。この地区や周辺に多種の生物が生息し、豊かな自然が残されている理由として、①田、あぜ、休耕田、斜面林など狭い地域にたくさんの少しずつ違った自然環境があり、その環境にあったいろいろな動植物が生息している ②水辺と林の両方を必要とする生き物が多い ③農業や生活に必要なものは近くの里山の自然から供給を受けてきたため、いろいろな自然環境が維持されてきたこと があげられます。このような豊かな自然は水田、あぜ、樹林、畑といった多くの種類の環境があって成り立っています。



◆無量寺

真言宗西中山宗光院無量寺といい、古くは尼寺で、東金街道ができてから実籾本郷の観音堂を移し、寺となったといわれています。聖徳太子作といわれる阿弥陀如来を本尊とし、運慶作といわれている正観音菩薩を脇侍としています。習志野七福神の寿老人札所です。明治初めには、学校として、照永法印が100人余りを教えたといわれています。「親子梅」やシイの古木、竹林があります。